

アウトドア活動でたくましい子どもを育てる

活動地域（青森県五所川原市）

男性のプロフィール

氏名：五十嵐 賢志さん

年齢層：中高年層（40～50歳代）

活動概要：NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」主催の「すてっぷ子ども教室」のスタッフとして、「外遊び」を通じてたくましい子どもを育てる活動を実践している。

活動開始のきっかけ

NPO主催の「お父さん塾」をきっかけに、地域の子育てに積極的に関わるように

平成18年4月、五所川原の教会の牧師として赴任しました。当時、幼稚園児と乳飲み子を抱えていましたので、妻は子育て支援の場へ出かけ、まちの人々との接点を持つようにしていました。そのような中で、NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」と出会い、地域全体で子育てをするという活動の趣旨に共鳴して会員となりました。当初は妻と子どもたちのみイベントに参加していましたが、交流が進むうちに私にも声がかかり、お父さんたちの出番を作ろうということで、関わりのあるお父さんたちが集められ、「お父さん塾」が作られました。私はこの時点では自発的ではなく、むしろ受動的な参画でした。

「お父さん塾」では、お父さんと子どもたちが遊ぶプログラムを作りました。話し合う中で生まれた企画は「がんこおやしをやっつけろ」というタイトルで、昔の遊びでお父さんに挑戦するものです。私はアウトドアが趣味で、子どもをたくましく育てるには外遊びが不可欠だと考えていたため、木登りを提案し、ロープやハーネス、ヘルメットなどで安全を確保しつつ、子どもたちに木登りの体験をさせました。ここでのお父さんたちとの仲間づくりの経験は、他地域から来た私を仲間に入れてくれるものでしたので、とてもありがたかったです。

「お父さん塾」でのプロジェクトを終えた後、これまでの活動を継続させるべく、私は同NPO法人が開催している「すてっぷ子ども教室」のスタッフになりました。NPOの場合、様々な助成金を受けて新たな取り組みに挑戦しやすいというメリットがあるため、私は、NPOに所属しながら、子どもたちに外遊びを促す活動を展開していこうと決めたのです。こうして、私は積極的に地域の子育て活動に関わるようになりました。

活動の内容

テント作りや木登りで、生き抜く力を育む

平成22年に五所川原市で市民提案型事業の公募がありました。NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」事務局から打診を受けた私は、アウトドアの知識を生かし、インディアンの移動式住居である「ティピー」というテントをつくるワークショップの企画を提案しました。ティピーはとても丈夫で、中で焚き火ができます。これを子どもたちと手縫いし、同年11月に「焚き火ミーティング」のタイトルで、焚き火料理などを楽しむイベントを開催しました。

翌年、同市教育委員会から打診を受け、「つながりあい支えあい家庭教育応援事業」（青森県教育委員会主催）として「五所川原外遊び塾」を結成しました。アウトドアのワークショップを開き、親子で体験するというものです。ロープを使って木に登る「ツリーイング」、ダッチオープンを使ったクッキング、トレッキング、ブーメランとキャンドルの作成などを行いました。

平成23年3月11日の東日本大震災以降、自然災害に遭ってもたくましく生き抜く力を育むことが重要であると痛感したため、こうした活動は今後も続けていくべきだと考えています。

みんなと活動すること。それが楽しい

アウトドアの活動は、親子、子ども同士、親同士、子どもと親以外の大人など、幅広い関係者間の交流を生み出しています。「ティピー」というテント作りで参加者全員で手縫いや組み立てをしたように、アウトドアの活動は共同作業がしやすく、自然と会話が弾むところに楽しさを見出しています。とにかく、みんなと活動すること、そのこと自体が楽しく、やりがいがあります。

周囲との関わり

理解し合い、応援する姿勢が行動の支え

地域の中で自然体験活動を広めたいという思いはかねてからありましたが、一人でやるには限界があります。このため、NPO法人「子どもネットワークすてっぷ」との出会いには大きな意義がありました。まず、やりたいことをやらせてくれる、という雰囲気があります。お母さんたちを中心に子育て支援をしてきた団体なので、私の提案は突拍子もないことのように見えたと思います。最初は半信半疑の人たちも、成果を目にした時、感動の眼差しに変わります。それが次の活動の意欲になりました。否定しない、理解し合い、応援するという基本的な姿勢が、行動の支えです。

活動で心がけていること

子どもと触れ合える時間は短く、尊い

男性がこのような地域活動をする場合、問題となるのは「仕事との両立」ということでしょう。幸い私は、仕事をやりくりすることができましたが、「男性は家族を養い、家計を支える」という意識が強く、仕事優先になりがちです。しかし、子どもが子どもでいる時間はとても短く、その時間は取り返せません。より多くの収入を得ることより、今、家族と関わることの方が尊いという意識が大切だと思います。

男性の場合、「何か具体的にこうすればいい」と決めつけるのではなく、思想的・哲学的な面を引き出せるとよいのではないかと思います。夢を持つとか、理想を追い求めるとか、さらに生涯、少年の心を持ち続け、「遊ぶ」ことに長けている男性も多いと思います。ですから、職場以外で、お父さん同士の仲間ができれば、お互いに刺激し合い、家族同士の交流にも広がっていくのではないのでしょうか。

これからの展望

アウトドアでイクメンを育てる

私がこの活動で目指していることは、「アウトドアでイクメンを育てたい」ということです。母親の育児に協力するというより、自分の得意分野を活かした育児があると思います。アウトドアでは、自然に対して向き合いながら、コミュニケーション能力が養われます。活動を共有し、感動を共有することで、親子、子ども同士、親同士、そして多くの人々の絆が培われるのです。社会には、マニュアルに書いていないことがたくさん起こります。それに直面した時、自然体験で培った知恵と能力、さらに、生き抜く力が役に立つと思います。

今後は、拠点となるフィールド作りを視野に入れ、いつでも利用できる里山を自分たちで管理したいと思っています。そして、原発事故で不自由な生活を強いられている子どもたちを招き、保養と体験のプログラムを開催したいと考えています。